

令和2年度第1回駒来塾運営委員会 議事要旨

《日 時》	令和2年7月28日(火) 午後2時～午後3時
《場 所》	小牧市役所 本庁舎4階 404会議室
《議 事》	(1) 学習支援事業「駒来塾」概要について (2) 新規参加生徒の申込状況について (3) その他
《出席者》	委 員：舟橋 孝司、佐野 吾朗、山本 幾男、光部 明美、 安藤 智人、山田 好広（6名） 事務局：鍛冶屋こども未来部長、櫻井こども未来部次長、 伊藤こども政策課長、加藤学校教育課管理指導主事、 岩井指導員、舟橋指導員、濱島
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 あいさつ

〔部長〕皆様には日頃から本市の青少年健全育成に格別のご尽力を賜り、厚くお礼申しあげます。また、本日はご多忙にもかかわらず、第1回小牧市学習支援事業「駒来塾」運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

「駒来塾」につきましては、平成29年度から、こども夢・チャレンジ推進事業の取り組みの一つとして、家庭環境などを理由に、学習塾に通っていない中学生を対象に実施をしてまいりました。

この運営委員会では、円滑に駒来塾の運営を行っていくため、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただき、こども達が駒来塾に来て良かったと思えるような事業を実施していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 委員委嘱

3 委員・事務局紹介

4 委員長・副委員長選出

委員長・・・舟橋 孝司 委員

副委員長・・・光部 明美 委員（委員長の指名による）

5 委員会の公開・非公開について

事務局説明

検討内容が非公開とする要件に該当しないため、公開することとした。

6 議事

(1) 学習支援事業「駒来塾」概要について

資料3に基づき事務局より説明

(2) 新規参加生徒の申込状況について

資料4-1～4に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

[委員] 昨年度の参加人数は今年度より多いが、昨年度も今年度の募集定員と同じ10名で募集を行ったのか。

[事務局] 今年度はコロナウイルス感染症対策のため、施設の利用定員が通常のお二分以下となっており、定員を超える応募があっても実際の受け入れ人数は会場ごとに調整する予定だったが、当初予定通り10名で募集をした。

[委員] 東部地区を例にとると、10名の募集に対し22名の応募があり、全て受け入れたということか。

[事務局] 前年度までに参加していた生徒は、引き続き参加をする場合が多い。その方々を除き、10名の募集を行った。

[委員長] 新規の参加生徒募集を10名で行ったということですね。

[委員] 学習サポーターの配置について、登録がある19名のうち、実際の活動従事者は4名のみで、残り15名は活動がないのか。

[事務局] 講師配置はローテーション制をとっており、ご登録いただいたサポーター皆さんに運営に携わっていただいている。本人の希望にもよるが、少ない方でも月に1回程度はご協力をいただいている。

[委員] 生徒の受け入れに関して、聞き取りによる判断としているが、具体的にどういったときにお断りをしているか。また、受け入れに際しどういった講師をいれているのか。

[委員長] 具体的に各地区での受け入れ例があれば教えてほしい。

[委員] 味岡地区では1名該当者がいるが、会話はできるので、生徒のレベルにあった問題に取り組んでいる。

[委員] 不登校の子やコミュニケーション障がいのある子に対しては、学校で習ったでしよという声掛けはせず、該当生徒に寄り添った指導をしている。

[委員長] 入塾を断った例はないか。

[事務局] ここ3年間は、資料4-1③を理由にこちらからお断りした生徒はいなかった。この駒来塾は学習の指導・補助がメインであるため、特別支援までは行っていない。外国籍の生徒で言葉が通じない場合など、1対1で専門的な指導が必要な方から申込があれば、現段階ではお断りすることとしている。不登校の生徒に講師が入れ替わりで声をかける等、現場でできるような対応をとることはある。

(3) 今後のスケジュールについて
資料5に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

[委員] チラシの配布・申込書の回収は学校でやっているのか。

[事務局] 学校にチラシ配布・申込書回収をお願いしている。今年度はコロナウイルスの関係で学校が休校だったため、例年4月に行う募集事務を6月に行った。また、生活保護受給者へも訪問時に個別案内を行っているが、今年度は先に述べた理由から中止した。

[委員] 学校でどれくらいの応募があるのか。

[事務局] 市内全中学校、全学年にチラシを配布し、申込状況については資料4-3にある人数のとおり。

[委員長] 駒来塾の新規スタートはいつか。

[事務局] 例年は7月。

[委員長] 申込期間外は定員以下の応募であっても受け付けないのか。過去の検討委員会の経緯も踏まえて教えてほしい。

[委員] これまでは多数応募があり、定員を超えたらどうするかを気にしていた。今年度はコロナウイルスのことがあるので、応募が少なかったのではないかと思われる。人数が少ない方が指導は行き届くので、期間外の受付はなしでよいと思う。

[委員] 過去に申込者が少なかったときは、夏休みの入塾に間に合う形で広報に載せて二次募集をかけたことがあったと思う。

[委員長] 経緯には記載がないが、過去には二次募集があったということか。

[事務局] 事務局では覚えがない。

(訂正：駒来塾を開始した平成29年度以降、生徒の募集は各年度それぞれ1回のみ。講師募集は年に数回行った年もあります。)

[委員長] 資料3に開始はそれぞれ8月とあるが、7月開始か。

[事務局] 8月。

(訂正：新規地区の開設は各年度8月。既存地区に新規参加生徒が加わるのは7月でした。)

[委員長] 面接は基本的に1回だが、8月開始に合わせて複数回募集することは

ありうるのか。

〔事務局〕 委員のご指摘通り例年より応募者は少ない。コロナウイルスのため学校が休校であり、また、ご家庭の状況で塾に通えず、かなりの応募があった場合、面接でどのように受け入れを決めるのか募集前に事務局で心配をしていた。また、追加募集を考えたとき、昨年度はコロナウイルスの関係で急遽塾を閉じており、これからもう一度募集をして申込があった生徒が確実に半年間通塾できる保証もなく、追加募集として今度はかなりの応募があった場合に面接で落とすことはいかなるものかという議論から、事務局として今年度はこのままでいきたいという結論に至った。

〔委員長〕 今年度はコロナウイルスのことがあるので、通常に戻ったときに、より希望する生徒に対して参加してよかったと思えるような塾にすればいいかなと思う。

(4) その他
特になし

7 その他

〔事務局〕 次回第2回委員会は2月頃の予定。日時等詳細は決まり次第連絡。

〔委員〕 小牧市で中学生全員に配布するタブレットを活用し、家にいながら勉強を教えられるとこどもたちの学力があげられると思う。